



「開発と環境」の 政策過程とダイナミズム

日本の経験・東アジアの課題

寺尾忠能・大塚健司 編

アジア経済研究所

研究双書 No. 527

寺尾忠能・大塚健司編 『「開発と環境」の政策過程とダイナミズム
—日本の経験・東アジアの課題—』

**“Kaihatsu to Kankyō” no Seisaku-Katei to Dainamizumu
Nihon no Keiken · Higashi-Ajia no Kadai**

(Dynamism of the Policy Process in “Development and the Environment”:
The Experiences of Japan and Problems in East Asia)

Edited by

Tadayoshi TERAO and Kenji ŌTSUKA

Contents

- Introduction (Tadayoshi TERAO and Kenji ŌTSUKA)
- Chapter 1 Political Economy of “Development and the Environment”: An Introductory
Analysis of Policy and Social Transformation (Tadayoshi TERAO)
- Chapter 2 Local Measures in Japan for Controlling Sulfur Oxide Emissions:
Pollution Control Agreements and Administrative Guidance Adopted
during the Era of Rapid Economic Development (Ryō FUJIKURA)
- Chapter 3 Pollution Control Technology Development and Industrial Organizations:
The Dynamic Process of Environmental Regulation and
Industrial Technology in Japan (Yoshifumi FUJII)
- Chapter 4 Pollution Control Policy for Small and Medium Industries: Experiences
in Lead Recycling in Japan and Developing Asia (Michikazu KOJIMA)
- Chapter 5 Implementation Process of Regulations for Point Sources of
Industrial Pollutants in China: Effectiveness and Conditions
of Regulatory Policy since the Late 1990s (Kenji ŌTSUKA)
- Chapter 6 An Environmental Regime in East Asia and Its Implementation:
International Responses to Emissions from Coal Combustion
in China and Their Limits (Hideaki SHIROYAMA)
- Conclusion (Tadayoshi TERAO and Kenji ŌTSUKA)

[Kenkyū Sōsho (IDE Research Series) No. 527]

Published by Institute of Developing Economies, 2002

3-2-2, Wakaba, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba 261-8545, Japan

「開発と環境」の政策過程とダイナミズム

◇ ヒアリング開催記録

2000年6月30日

講師：田窪祐子（富士常葉大学環境防災学部講師）

テーマ：巻町「住民投票を実行する会」の誕生・発展と成功

同日

講師：鄭徳秀（大阪薫英女子短期大学講師）

テーマ：韓国における環境政策の展開

2000年7月14日

講師：猿田勝美（神奈川大学名誉教授）

テーマ：地方自治体による公害対策の展開—横浜方式を中心にして—

2000年9月4日

講師：橋本道夫（(社)海外環境協力センター顧問）

テーマ：水俣病事件をめぐる政策過程

2000年10月13日

講師：山口務（(財)地球環境産業技術研究機構専務理事）

テーマ：日本の立地公害行政の展開過程—エネルギー低硫黄化計画を中心にして—

2001年6月19日

講師：深井純一（立命館大学産業社会学部教授）

テーマ：水俣病の政治経済学—行政責任とその資料収集—

2001年7月10日

講師：小林料（東京電力顧問）

テーマ：東京電力の公害対策経験

同日

講師：長谷川公一（東北大学大学院文学研究科教授）

テーマ：環境運動と環境政策のダイナミズム

2001年7月23日

講師：藤井重雄（(株)タクマ総合技術部長）

テーマ：日本の環境装置市場の推移と海外への技術移転

2001年11月19日

講師：森嶋彰（環境事業団調査役）

テーマ：環境事業団の経緯

注：敬称略。肩書きはヒアリング当時のもの。

目 次

まえがき

序 章 本書の問題意識と構成	寺尾忠能・大塚健司	3
第1章 「開発と環境」の政治経済学をめぐる		
——政策と社会変動——	寺尾忠能	9
はじめに		9
第1節 「開発と環境」の政治経済学をめざして		10
第2節 環境紛争と社会変動——交渉過程としての紛争——		13
第3節 交渉・合意形成過程としての環境政策		14
第4節 「開発と環境」をめぐる		20
まとめと展望		29
第2章 日本の地方公共団体の硫黄酸化物対策		
——高度経済成長期に実施された公害防止協定と行政指導——		
.....	藤倉 良	37
はじめに		37
第1節 硫黄酸化物による大気汚染の背景		39
第2節 大阪市の行政指導		41
第3節 横浜市と北九州市の公害防止協定		47
第4節 対策の比較		53
第5節 硫黄酸化物対策の背景と発展途上国への適用可能性		64
おわりに		73

第3章 公害防止技術開発と産業組織	
——「日本の経験」にみる環境規制と産業技術の	
ダイナミックプロセス——	藤井美文…79
はじめに	79
第1節 「日本の経験」と技術開発	80
第2節 硫黄酸化物対策と技術開発	82
第3節 窒素酸化物対策と技術開発	87
第4節 環境規制と技術開発の相互関係	
——環境規制に対する企業行動と産業組織——	93
第5節 「日本の経験」のその後	98
第6節 「日本の経験」がもたらす発展途上国へのインプリケーション	102
第4章 中小企業およびインフォーマル・セクターの公害対策	
——鉛りサイクルにおける日本の経験とアジア諸国の模索——	
	小島道一…107
はじめに	107
第1節 世界の鉛りサイクル産業と公害問題	109
第2節 日本における鉛りサイクル産業の発展の歴史	110
第3節 フィリピン，インドネシア，インドの鉛りサイクル	116
第4節 日本の経験の発展途上国への適用可能性	128
おわりに	130
第5章 中国における工業汚染源規制の実施過程	
——1990年代後半以降の規制政策の実効性とその条件——	
	大塚健司…139
はじめに	139
第1節 規制強化	141
第2節 規制の適用と実施	150

第3節	規制執行	157
第4節	汚染源に対する社会的圧力——その中国的特質——	165
第5節	不完全な規制執行下の技術導入 ——江蘇省100企業調査の結果から——	170
	おわりに	176
第6章	東アジアにおける環境レジームと国内実施 ——中国の石炭燃焼問題への国際的対応とその限界——	
	……………城山英明	187
	はじめに：国際的対応の実施段階での基本的課題	187
第1節	東アジアにおける環境レジームの形成	189
第2節	援助・市場による国際環境協力の事例 ——対中石炭燃焼改善協力——	195
第3節	国内条件の役割	202
第4節	国際的条件	208
	おわりに：中国固有の条件の探索と日本の経験の相対化の必要	215
終章	本書のインプリケーションと課題	221
	……………寺尾忠能・大塚健司	